



# 株式会社ジーエヌアイグループ

2026年12月期 第1四半期 決算説明資料

We Bring New Hope to Life

# Agenda

---

**1. 会社概要**

---

**2. 2026年 第1四半期 セグメント別業績**

---

**3. 2026年 第1四半期 連結業績**

---

**4. 補足資料**

---

# 1. 会社概要



取締役代表執行役社長 兼 CEO

イン・ルオ Ph.D. Ying Luo

アンメット・メディカル・ニーズ（満たされていない医療ニーズ）に対する新しい治療薬の開発のために、日本、アメリカ、中国の製薬業界のユニークな強みを活用する新たなビジネスモデルを開拓。

1991年 コネチカット大学保健センターから分子生物学/生物医学の博士号を取得。30年以上のキャリアの中で40件以上の研究結果や出版物の共著者であり、16件以上の特許における発明者でもある。

クラス1.1の新薬として中国で認定された、当社グループの主力製品である肺線維症治療薬アイスーリュイを開発。また、肝線維症の治療薬候補であるF351(ヒドロニドン)が、CDEから画期的治療薬として指定されるなど、革新的な医薬品の研究開発を牽引。

2024年 Forbesが選ぶ中国で最も影響力のある100人に選出。

# ジーエヌアイグループ° 概要



## グローバル展開

中国、米国市場を活用し、日本本社から持続的な事業成長を実現する  
グローバルバイオ医薬品企業（東証：2160）



## 事業構成

① 製薬事業 ② 創薬事業 ③ 医療機器事業

重点疾患領域：線維症、疼痛、がん、整形外科



## グローバルネットワーク

主要事業拠点：日本、中国、米国、豪州

会社数：26社

従業員数：990名（2025年12月末時点）



## 研究開発と販売

開発中のパイプライン及び上市製品：23（2025年12月末時点）

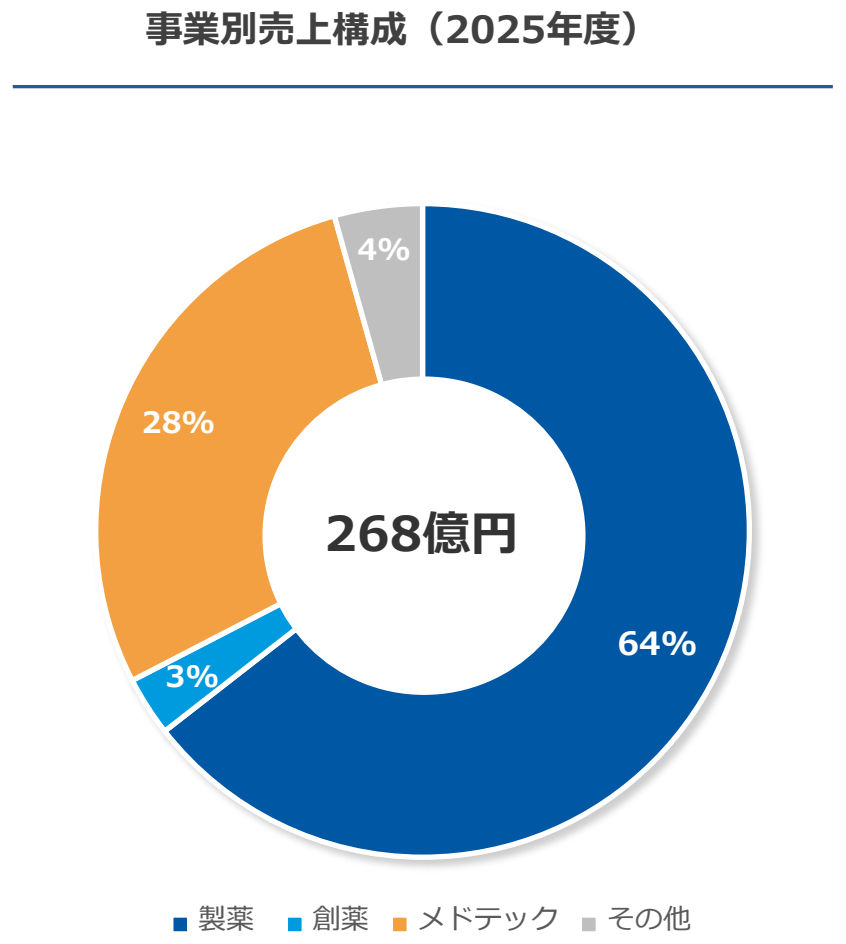
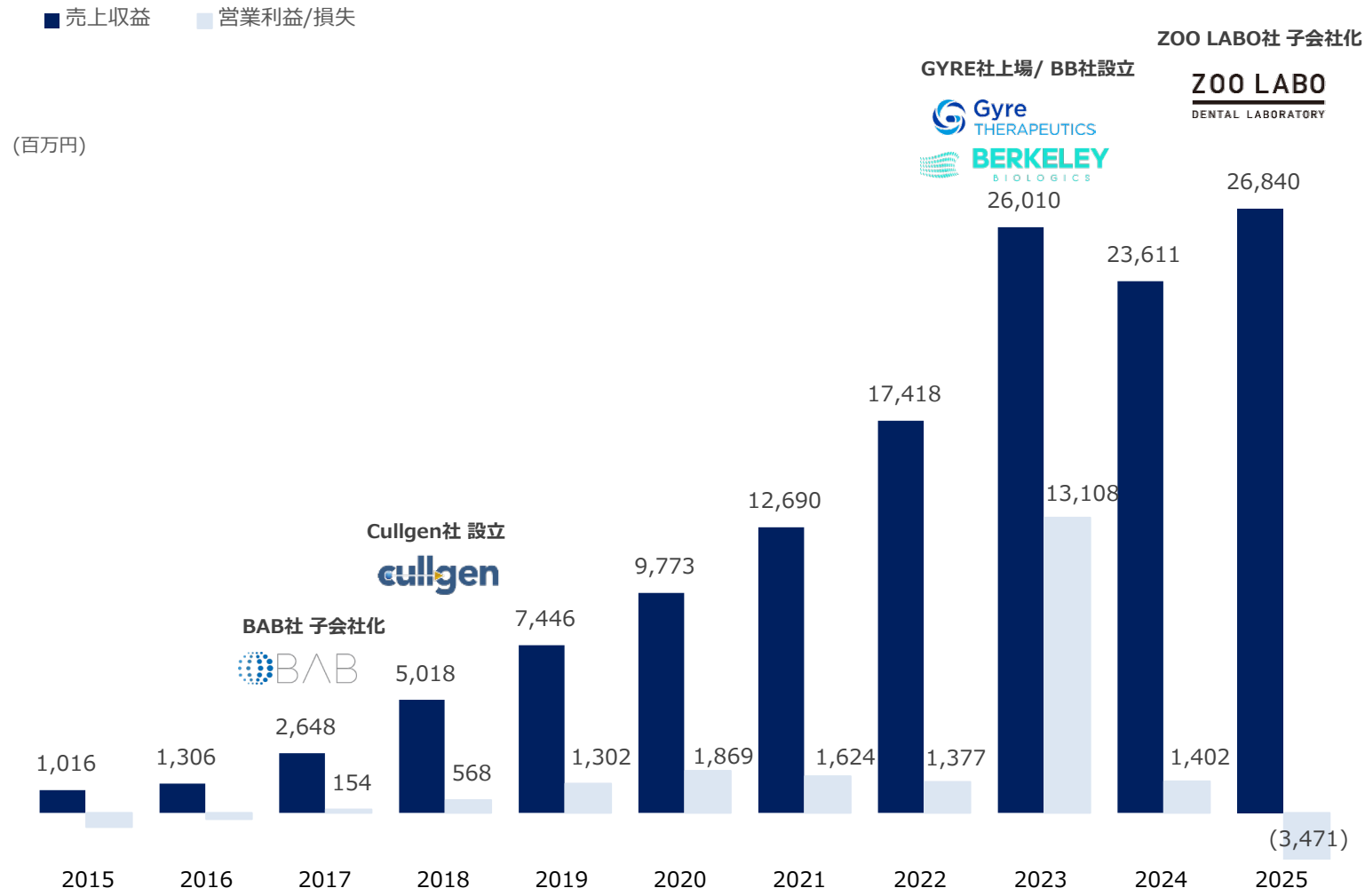
中国における病院等の販売網：3,000

中国におけるMR人数：400名



# 主力3事業を軸に築いてきた成長トレンド

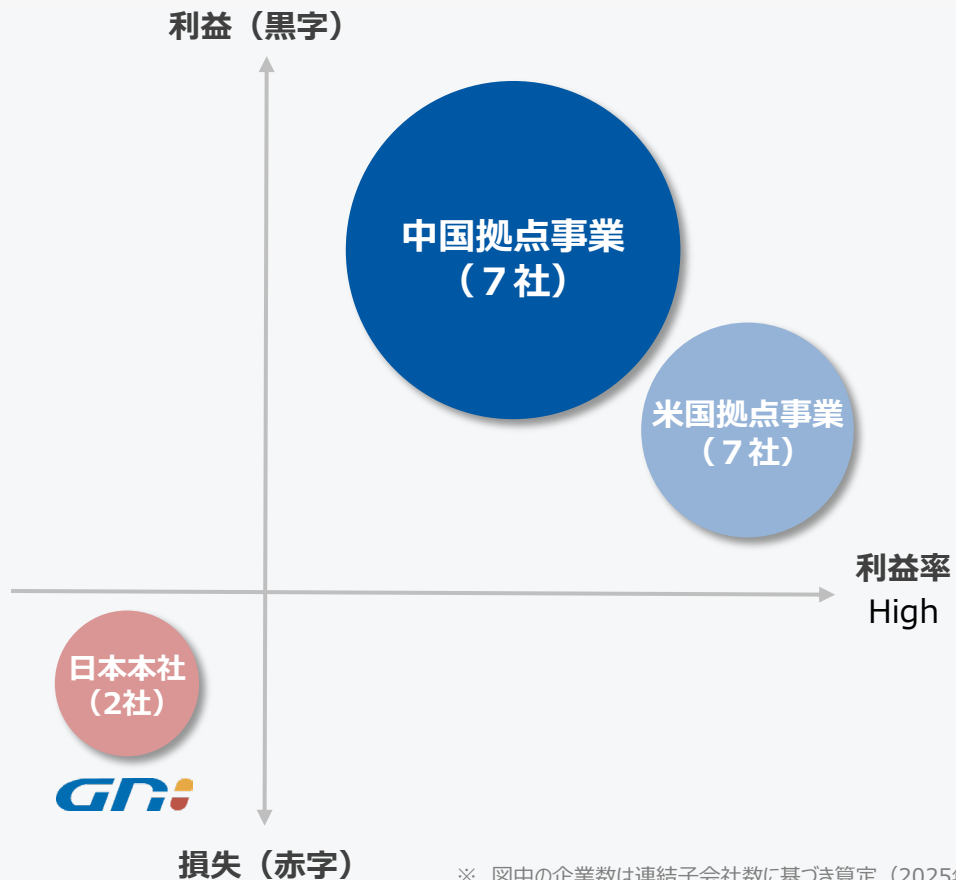
グローバルバイオ医薬品企業を目指し、製薬・創薬・メドテック事業で基盤を構築



# 次なる注力は日本事業の収益基盤確立

## グローバルバイオ製薬企業を目指し、日本事業の収益化を次の成長ドライバーに

【現状】 地域別利益 収益を生む事業を保有していない日本本社は赤字継続



※ 図中の企業数は連結子会社数に基づき算定 (2025年12月末時点)

**日本本社の構造的赤字を解消し、収益基盤を確立**  
収益源を確立することで、本社機能で発生する費用を賄える収益構造へ転換し、日本事業の黒字をめざす

**本社単体での黒字化・キャッシュフロー創出を実現**  
日本事業が安定的に利益とキャッシュフローを生み出す体制に移行し、財務健全性や投資余力を高める

**子会社事業への依存度を低減し、ポートフォリオを安定化**  
米国・中国中心の利益構造から、日本事業の収益化により分散し、外部環境の変動に耐えうるグループ構造を構築

# 米国・中国を跨ぐ持続的成長基盤の確立



次世代創薬エンジン  
uSMITE™技術を基盤とした米国、  
中国の創薬プラットフォーム。  
次世代DAC(分解誘導剤抗体複合体)  
技術により、革新的な新規候補物質  
を継続的かつ効率的に創出



中国における臨床、製造、販売拠点  
中国のコスト競争力と開発インフラ  
を最大限に生かした臨床開発、製造  
販売インフラにより、グローバル水  
準の品質を低コストで実現



米国と中国における製薬事業を統括する事業会社  
基礎研究から商業化、営業まで、医薬品開発の全工程  
を一つのグループで実現



## 統合後の強みと成長戦略



1

研究段階から開発段階までを網羅する強固かつバランスの取れた治療パイプラインを有し、製造及び商業化体制も確立済み



2

中国の効率かつコスト競争力のある創薬力を活用し、リスク低減済みの開発品を米国市場へ展開



3

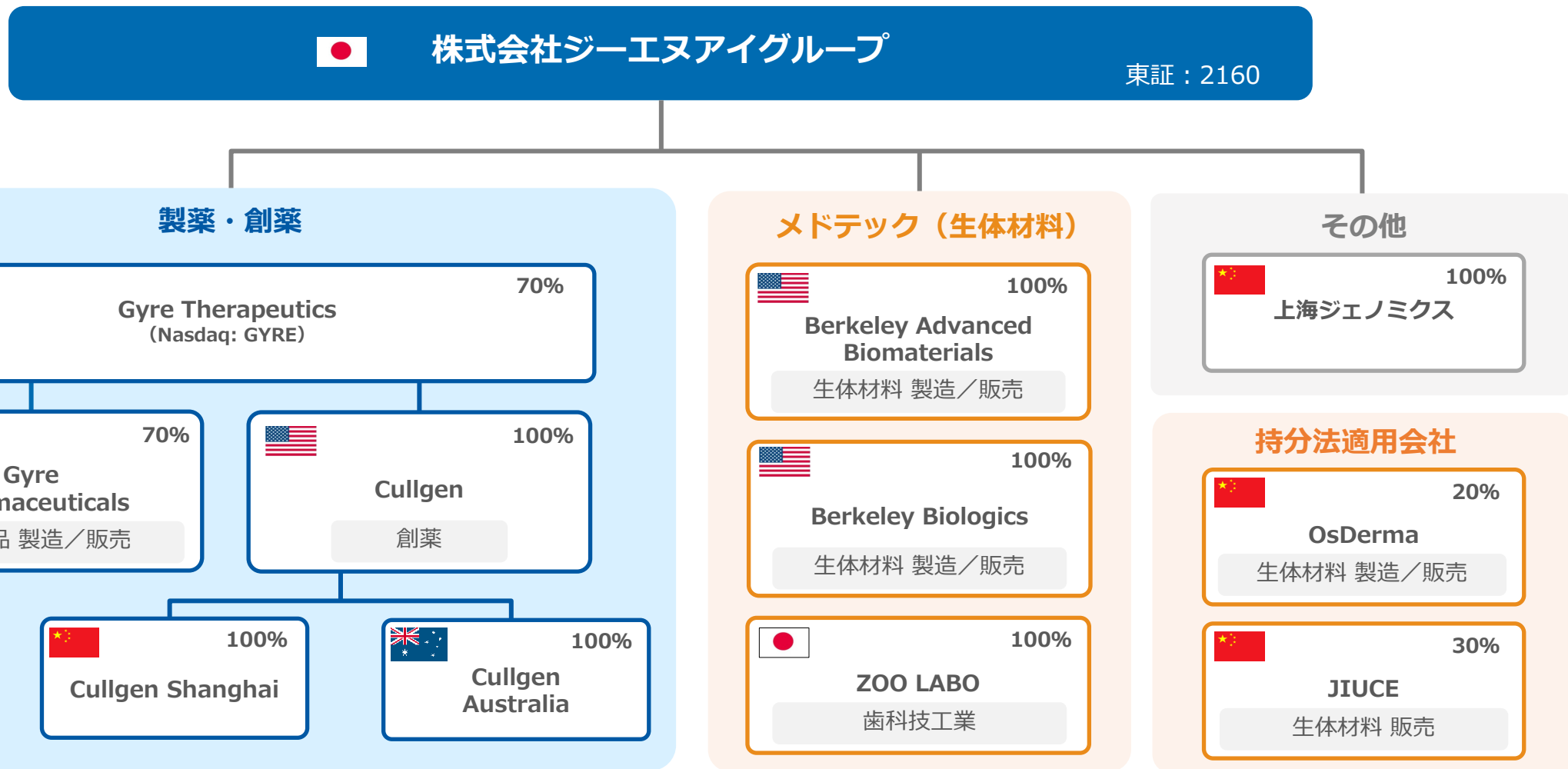
分解誘導剤の分野における実績により、次世代ADC治療薬であるDACの開発に明確な競争優位性を提供



4

米国における強力な経営陣と、グローバルにおける豊富な事業運営経験

# 主要グループ体制




※本グループ体制図は、視認性の向上を目的として再構成しております。一部のグループ会社は図中に記載しておりませんが、これらの会社が解散または売却されたことを意味するものではありません。保有比率は四捨五入しており、実際の比率とは異なる場合がございます。

# 強固なポートフォリオ：炎症、疼痛、がん領域を網羅



IND 有効化	第1相	第2相	第3相	NDA提出済	上市
<b>CG620953</b> TYK2/JAK1分解誘導剤 炎症性疾患  	<b>ヒドロニドン (F351)</b> MASH関連肝線維症 	<b>CG001419</b> 急性痛、慢性痛  	<b>アイスーリュイ (ピルフェニドン)</b> じん肺 適応拡大 	<b>ヒドロニドン (F351)</b> B型慢性肝炎に起因する肝線維症 	<b>アイスーリュイ (ピルフェニドン)</b> 特発性肺線維症(IPF) 
<b>CG923308</b> CDK2分解誘導剤 固形がん  		<b>F573</b> 急性肝不全 (ALF) 	<b>アイスーリュイ (ピルフェニドン)</b> 放射線誘発性肺障害 適応拡大 		
<b>F528</b> 慢性閉鎖性肺疾患 (COPD) 					

 分解誘導剤

上表は主要な開発パイプラインを掲載しており、この限りではありません。  
 当該パイプラインは、Gyre Therapeutics及びCullgenにより変更される可能性があります。

## 2. 2026年 第1四半期 セグメント別業績

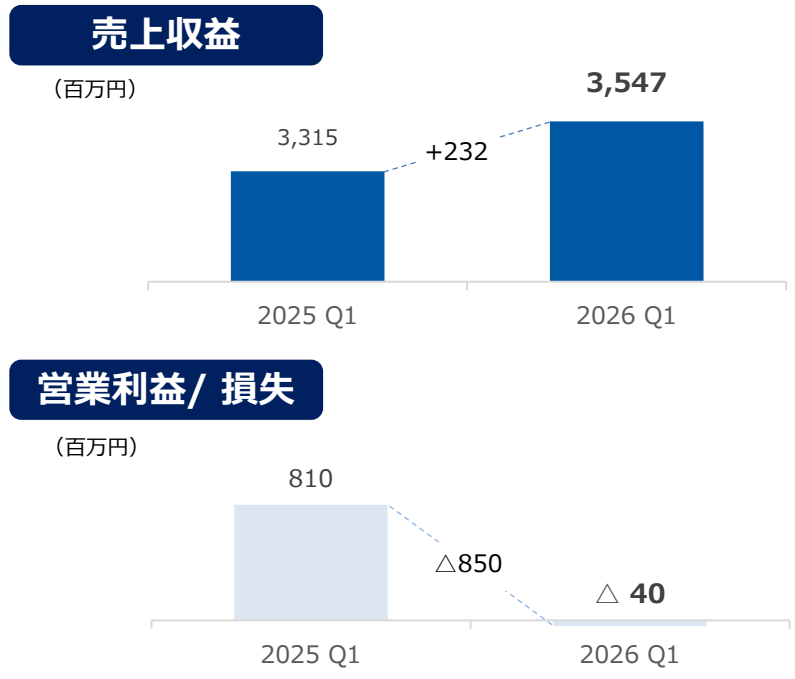
# 製薬事業



## 業績

(百万円)	FY2021 累計	FY2022 累計	FY2023 累計	FY2024 累計	FY2025 累計	FY2025 (四半期)	FY2026 (四半期)	対前年比 (増減)	FY2026 通期 業績予想
						Q1	Q1		
売上収益	9,868	13,346	15,742	15,847	17,314	3,315	3,547	232	16,000
営業利益	2,501	3,735	4,054	4,003	3,213	810	△40	△850	-
営業利益率	25.3%	28.0%	25.8%	25.3%	18.6%	24.4%	△1.2%		

## 業績概要 売上収益は前年同期比で増収、既存製品を中心に堅調に推移



## 営業利益/損失の変動要因 (前年同期比)

F351上市準備を含む成長投資及びGyreにて前期発行ストックオプションの(非資金)会計処理により、営業損益は費用先行

- F351上市準備を含むマーケティング費用：+539百万円**  
 F351の販売開始に向けた初期準備活動（啓蒙活動）\*にかかる費用を計上  
 前期に販売開始したContiva™及びEtorel™の、市場プロモーション等への投資
- 株式報酬費用：+415百万円**  
 前期に発行したF351プロジェクトの進捗含む業績連動型ストックオプションの会計処理（Gyre Pharmaceuticalsの研究開発人材に向けたGyre株式対象）  
 当該費用は今期予算上、Q1で概ね計上済み

\*GNI Groupによる独自見解

# F351上市までのプロセス

2026年5月13日に新薬承認申請（NDA）の正式受理通知を受領。現在、優先審査制度のもと審査進行中

	説明	進捗
1. Pre-NDA ミーティング	NDA提出前に規制当局と事前協議	完了
2. 優先審査品目への指定	臨床的価値の高い新薬の開発促進及び承認審査の迅速化を目的とした審査制度の対象として指定	指定済み（2026年3月18日公表）
3. NDA 提出	中国における新薬承認申請を提出	完了（2026年3月24日公表）
4. 形式審査	提出資料の形式的要件・必要資料の充足性を確認	完了
5. 受理番号の発行	CDEによる形式審査を経て、NDAが正式に受理	発行済み（2026年5月13日公表）
<b>6. 技術審査（本審査）●</b>	<b>有効性や安全性をデータに基づいて科学的・専門的に評価する、最も重要な審査</b> ※優先審査制度のもと通常の審査期間より短縮されたスケジュールでの審査	<b>進行中</b>
7. NDA 承認/GMP 適合性確認完了	本審査及び製造所における製造管理・品質管理体制の確認を経て、NDA承認	今後
8. 上市/販売開始	承認取得後、薬価決定、販売及び供給体制の整備を経て上市	今後
9. 保険適用申請並びに薬価交渉	中国における保険償還収載に向けた申請及び価格交渉を実施	今後

\*GNI Groupによる独自の解釈を含みます。

# アイスーリュイの適応拡大戦略：既存治療が限られるがん関連肺合併症への展開

## ピルフェニドン（アイスーリュイ）は適応拡大に向け、放射線誘発性肺障害（RILI）における第2/3相の第1例目被験者登録を完了（2026年4月）

### 対象疾患の概要

放射線誘発性肺障害（RILI）は、胸部腫瘍に対する放射線治療後に発生し得る肺障害であり、咳、息切れ、肺機能低下等を引き起こすがん治療関連合併症。治療選択肢が限られる一方、肺線維症へ進展する可能性があるアンメットニーズの高い領域

### 市場規模

- 中国におけるRILIの患者数は2032年に12万人まで増加する見込み  
市場規模は4.9億ドル（約770億円）へ拡大（CAGR 4.43%）
- RILIに併発し得る関連領域として、免疫チェックポイント阻害剤関連肺炎（CIP）は、2032年に患者数が約34.5万人、治療薬市場が約6.8億米ドル（約1,100億円）へ成長見込み

（出所：Frost & Sullivan, Gyre Therapeutics Inc. 公開資料より）

【参考】中国有数の総合がんセンターが主導した第2相試験において、ピルフェニドン併用によりRILI患者の肺拡散能\*1（DLCO%）が改善し、治療可能性を示唆する結果が報告\*2（The Lancet Oncology 2025年12月掲載）

本試験の位置づけ：	中国の中山大学がんセンター等の外部医療機関が主導した第2相試験。Gyre Pharmaceuticalsが試験薬としてピルフェニドンを提供。RILIに対するピルフェニドンの治療可能性を示唆する外部臨床エビデンスとして位置づけ
試験概要：	Grade 2/3のRILI患者を対象とした、ピルフェニドンを用いた多施設共同ランダム化比較試験（n=134）
主要結果：	24週時点のDLCO%（肺拡散能）において、対照群（ステロイド単独）がベースラインから2.4%悪化に対し、ピルフェニドン併用群は8.0%改善（有意差 p=0.0010） 本試験の中で重篤な有害事象の発現率は両群で大きな差はなく、治療に関連する死亡はなし

### 第2/3相アダプティブデザイン

中間解析結果に基づいて症例数や投与設計を最適化することで、開発効率の向上及び開発期間の短縮を目指す。

\*1 肺から血液へ酸素を取り込む能力を示す肺機能指標。RILIでは肺の炎症や線維化により低下することがあり、肺障害の程度や治療効果を評価する指標の一つ

\*2 本試験は当社グループが現在実施している第2/3相試験とは異なる外部医療機関主導の試験です。

出所：Hou Z, Dong B, Yao Q, et al. "Pirfenidone for grade 2 and grade 3 radiation-induced lung injury: a multicentre, open-label, randomised, phase 2 trial." The Lancet Oncology, Vol. 26, Issue 12, pp. 1552-1562, 2025. doi:10.1016/S1470-2045(25)00515-7.

# Gyreの主要な製薬及び創薬製品（候補）

## 製薬

### アイスーリュイ



（一般名：ピルフェニドン）中国語：艾思瑞、英語：ETUARY™

- 特発性肺線維症（IPF）を適応症とする治療薬であり、2014年から販売
- 当社の主力製品

### Contiva™



（一般名：アバロンボパグマレイン塩酸塩）中国語：康曲欣®

- 2025年3月に販売開始
- 肝疾患関連治療薬であり、F351上市に向けた販売ルートの確立（慢性肝疾患による血小板減少症及び慢性特発性血小板減少症）

### Etorel™



（一般名：ニンテダニブエシル酸塩）中国語：伊妥瑞®

- 2025年6月に販売開始
- IPF以外の肺線維症を適応症とする（全身性硬化症に伴う間質性肺疾患及び進行性線維性間質性肺疾患）



## 創薬

### F351



（一般名：ヒドロニドン）

- 治療薬の存在しない肝線維症に対する期待のブロックバスター治療薬候補\*（2025年5月23日 第3相臨床試験の良好なトプラインデータ公表）
- 2021年「画期的治療薬」にNMPA（中国国家薬品监督管理局）より指定
- 2026年5月13日に新薬承認申請（NDA）受理（優先審査対象）

### F528



- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）を適応症とする次世代のブロックバスター治療薬候補\*
- COPDは世界で4番目に多い死因であり、2021年には350万人が死亡（世界の全死亡者数の約5%に相当）
- 中国の推定患者は約1億人存在するも、未だ根本的な治療薬は存在せず（F528の詳細情報は[当社2025年第2四半期決算説明資料参照：p39-43](#)）
- 2027年第1四半期にIND申請予定

\*GNI Groupによる独自見解

# 創薬事業

## 業績

(百万円)	FY2021 累計	FY2022 累計	FY2023 累計	FY2024 累計	FY2025 累計	FY2025 (四半期)	FY2026 (四半期)	対前年比 (増減)	FY2026 通期 業績予想
						Q1	Q1		
売上収益	0	0	5,805	1,439	789	353	172	△ 181	544
営業利益	△1,920	△2,794	2,374	△3,371	△3,958	△1,138	△ 1,048	90	-

## 業績概要 Gyre TherapeuticsによるCullgenの完全子会社化完了 (2026年5月4日)

- R&D費用 (608百万円) は前期比同水準で推移
- Cullgenの単独上場関連費用が減少
- Gyre TherapeuticsにおいてCullgen買収のアドバイザー関連費用として約400百万円を計上 (当該費用はその他セグメントに含む)

### Gyre-Cullgenの子会社再編による主な業績影響

Gyreの上場基盤を活用した資本市場アクセスの強化を図るとともに、統合後の開発方針、開発スケジュール及びリソースの見直しを進める予定\*1

① 未払い利息の債務免除益	第2四半期に一時利益として計上予定	計上額は監査法人と協議中
② 每期計上していた未払い利息の解消	今後の費用負担が解消	完全子会社化完了日以降、未払い利息は発生しない見込み (参考: 2025年通期の未払い利息約15億円)
③ Cullgen損益の当社帰属割合の変化	当社帰属損益への影響が変化	従前は当社がCullgenを約40%保有。再編後は、当社が約70%保有するGyreを通じてCullgenを間接保有*2

\*1 GNI Group独自の見解を含みます。

\*2 持分比率は、本取引公表時点におけるGyre Therapeutics及びCullgenの発行済株式数を基に算定したものであり、今後ストックオプションの行使等により持分比率が変動する可能性があります。なお、当社の持分には100%子会社を通じて保有する持分を含めております。

# Cullgenの主要な創薬製品（候補）

独自の標的タンパク質分解誘導技術プラットフォームuSMITE™を活用し、新薬創出を目指す

## 創薬

### CG001419（急性及び慢性痛）

- **疼痛治療においてファーストインクラスの経口pan-TRKタンパク質分解誘導剤となる可能性**
- 過去25年間で承認された非NSAID・非オピオイド鎮痛薬は1剤のみ（急性疼痛）
- 世界の急性及び慢性疼痛の市場規模は数十兆円規模<sup>1</sup>
- 2025年12月にオーストラリアで行われた第1相試験が完了。重篤な有害事象は認められず、良好な結果
- 2026年上半期に米国で外反母趾切除術による急性疼痛を対象とした第2相試験を開始予定

### CG001419（固形がん）

- 非臨床試験では、NTRK遺伝子融合や野生型TRKタンパク質の過剰発現など、さまざまながん原性TRK異常を有する固形がんに対して強い効力
- 中国にて第1相試験進行中
- 最初の18例においてはDTL(容量制限毒性)、薬剤関連SAE(重篤な有害事象)、グレード3以上の薬剤関連有害事象はいずれも認められず

1. <https://www.precedenceresearch.com/pain-management-drugs-market>
2. <https://www.psoriasis.org/psoriasis-statistics/>
3. <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/rheumatoid-arthritis>
4. <https://www.niams.nih.gov/health-topics/lupus/basics/symptoms-causes>

### CG009301（白血病、MYC）

- GSPT1はタンパク質への翻訳終了を制御する因子であり白血病肝細胞やMYC過剰発現を伴う腫瘍細胞において重要な役割を果たす
- GSPT1は創薬困難と考えられてきたが、CullgenではGSPT1を強力かつ選択的に分解する分解誘導剤CG009301を開発
- 非臨床試験では選択性、有効性、安全性を検証済み
- 中国にて2025年4月より第1相試験を開始、現在は容量漸増パートを進行中

### CG620953（炎症性疾患）

- 自己免疫疾患に対するTYK2の選択的標的化、全身性エリテマトーデス及び関節リウマチの非臨床試験では選択的TYK2分解誘導剤が有効性を示す
- 大きな市場機会：世界の感染患者数は1億2,500万人<sup>2</sup>、関節リウマチ患者数は1,800万人<sup>3</sup>、2018年米国の全身性エリテマトーデスの患者数は約20万4000人<sup>4</sup>
- 第1相試験のINDを中国にて2027年第1四半期に申請予定

### CG923308（乳がん、多発性固形がん）

- 第1相臨床試験のINDを米国と中国にて2027年第1四半期申請予定

# 自社開発パイプライン (GNI Group独自見解含む)

\*開発内容やスケジュールは進捗状況により変更される可能性があります。

製品 (候補)	モダリティ   ターゲット	適応症	場所	基礎	非臨床	第1相	第2相	第3相	NDA	上市	開発進捗
F528	低分子	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	グローバル	■							2027年Q1 IND申請予定
F351 (ヒドロニドン)	低分子	MASHに起因する肝線維症	グローバル	■	■						2026年 IND申請予定
	低分子	B型慢性肝炎に起因する肝線維症	中国	■	■	■					2026年5月 NDA申請受理
アイスーリュイ (ピルフェニドン)	低分子	特発性肺線維症 (IPF)	中国	■	■	■	■				
	低分子	じん肺	中国	■	■	■	■				2026年Q3 第3相試験完了予定
	低分子	放射線誘発性肺障害 (CIP有無を問わず)	中国	■	■	■	■				2026年Q1 第2/3相第1例被験者登録完了
	低分子	皮膚筋炎に伴う間質性肺疾患 (DM-ILD)	中国	■	■	■	■				
	低分子	全身性硬化症に伴う間質性肺疾患 (SSc-ILD)	中国	■	■	■	■				
	低分子	糖尿病性腎臓病 (DKD)	中国	■	■	■	■				
F573	低分子	急性肝不全 (ALF)/ 慢性肝不全の急性増悪 (ACLF)	中国	■	■	■	■				
F230	低分子	肺動脈性肺高血圧症 (PAH)	中国	■	■	■	■				2026年Q4 第1相臨床試験完了予定

## 標的タンパク質分解誘導剤/ DAC

CG001419	分解誘導剤   TRK	急性痛、慢性痛	グローバル	■	■	■					2026年Q2 第2相開始予定 (米国)	
CG001419	分解誘導剤   TRK	固形がん		■	■	■						2027年Q4 第1相完了予定 (中国)
CG009301	分解誘導剤   GSPT1	がん (白血病、MYC)		■	■	■						2027年下半年 第1相完了予定 (中国)
CG923308	分解誘導剤   CDK2	乳がん、多発性固形がん		■	■	■						2027年Q1 IND申請予定 (米国/中国)
CG620953	分解誘導剤   TYK2/ JAK1	炎症性疾患		■	■	■						2027年Q1 IND申請予定 (中国)
非開示	DAC   エピジェネティック因子	がん (前立腺、肺、膀胱)		■	■	■						
非開示	DAC   翻訳因子	血液がん、多発性固形がん		■	■	■						
非開示	分解誘導剤   cAMP制御因子	線維化疾患		■	■	■						

# メドテック事業

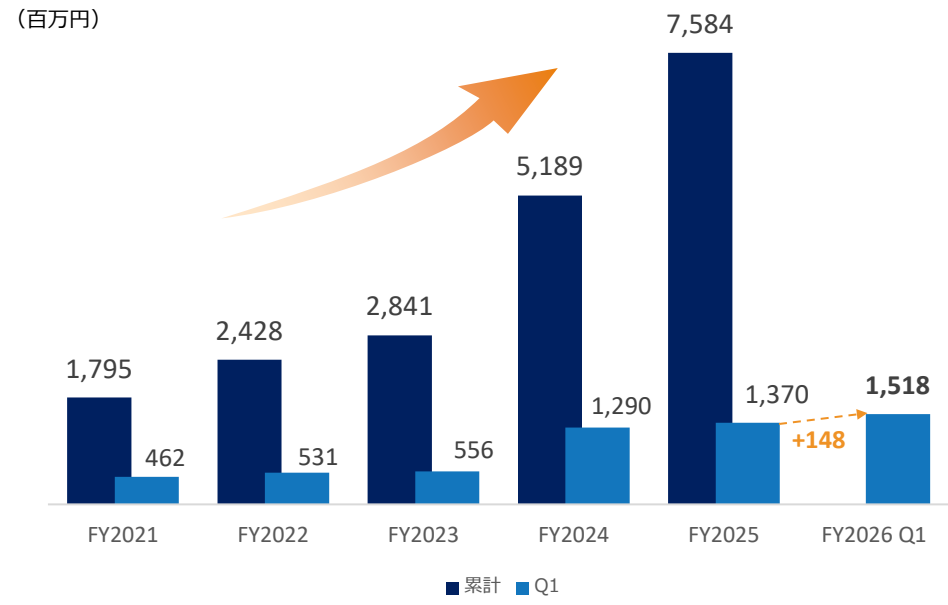


## 業績

(百万円)	FY2021 累計	FY2022 累計	FY2023 累計	FY2024 累計	FY2025 累計	FY2025 (四半期)	FY2026 (四半期)	対前年比 (増減)	FY2026 通期 業績予想
						Q1	Q1		
売上収益	1,795	2,428	2,841	5,189	7,584	1,370	1,518	148	9,674
営業利益	844	1,110	1,133	942	1,274	245	△ 246	△ 491	-

## 業績概要 M&Aによる事業領域拡大により、第1四半期で売上過去最高を記録

メドテックグループ売上収益推移



### 売上収益

- 前期に子会社化したZOO LABO（歯科技工）が売上に寄与
- 米国生体材料事業では、BABは既存顧客向け販売を中心に堅調に推移し、前期比22%増収
- BBは米国メディケア制度改定に伴う大口顧客からの受注見送りによる影響が当期顕在化。新事業（組織移植事業）の米国国外の展開を通じ、収益基盤の回復を図る方針

### 営業利益/損失

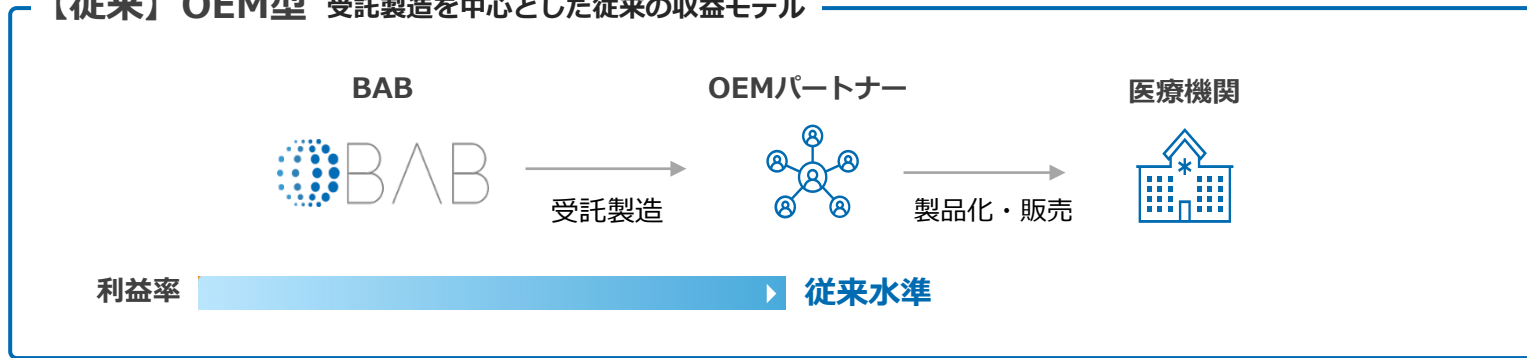
- BBの米国メディケア制度改定の影響（[2025年Q3 説明資料参照](#)）が利益にも反映され前期比で減益になったものの、ZOO LABO及びBABは黒字で推移
- BABのプライベートブランド製品販売（2026年3月に米国FDAへ販売申請提出済み）、BBの皮膚移植事業に係る規制当局への申請等、先行投資費用が継続

# 【メドテック】グループ初の自社ブランド戦略製品

## 当社グループが志向する自社製造・販売体制の確立を見据えたPB製品の販売

- BABが販売予定の戦略製品は生体適合性が高く、外科手術や火傷など様々な損傷に効果的
- 2026年3月に米国FDAへの販売申請を提出済み、承認された場合は今期に販売開始予定

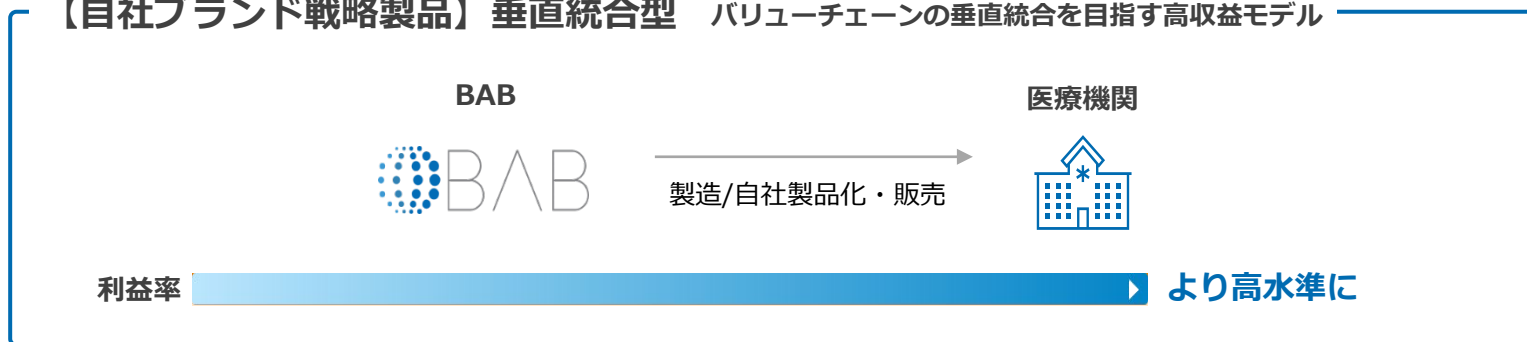
### 【従来】OEM型 受託製造を中心とした従来収益モデル



### 収益性の飛躍的向上

中間マージンを排除し、バリューチェーン全体の利益を自社に取り込むことで、利益率の向上を実現

### 【自社ブランド戦略製品】垂直統合型 バリューチェーンの垂直統合を目指す高収益モデル



### 持続的競争優位の確立

自社ブランド構築により、価格競争からの脱却と市場における独自のポジションを獲得

# 【メドテック】 OsDermaによる美容市場への展開

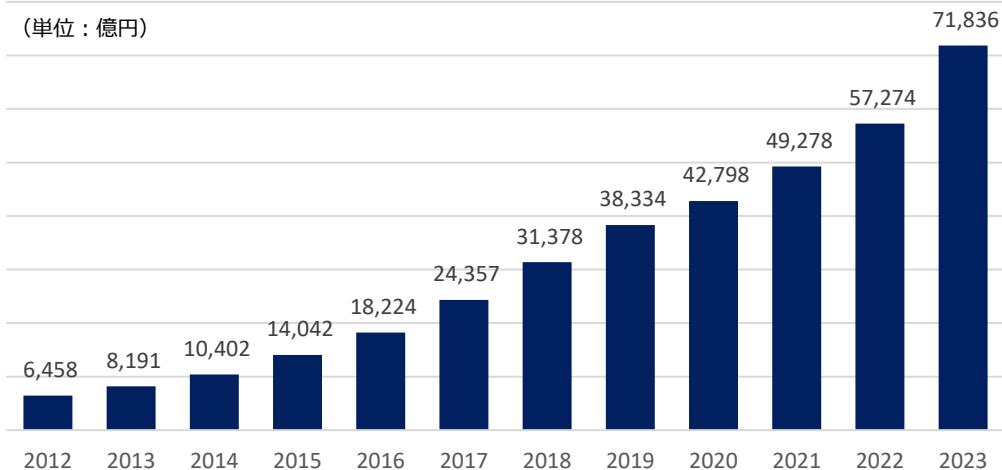
## ジーエヌアイグループのビジネスプラットフォームのシナジー具現化へ

### 美容医療のハイエンド市場でのシェア拡大 及びブランド確立を目指す

OsDermaが開発するDermiraCa®

- 骨や歯の主成分であるHydroxyapatite (HAp)を配合し、高い生体適合性と生分解性を持つ製品
- 組織修復とコラーゲン再生を促進し、臨床試験で安全性と有効性を実証
- 即効性と持続的な再生効果の両立

2012年-2023年 中国における医療美容市場規模\*



### 同業に対する競争優位性

美容整形領域における適応外使用への規制強化は同社にとっての追い風

#### ① メドテックグループとのシナジー

競争力のある機能性素材の証明  
原材料から製造まで、また製造設備の自社開発を含め一貫生産による高利益率の実現が可能

#### ② 創薬グループ事業とのシナジー

臨床試験の経験が限られる同業他社に対し、当社は豊富な実績を保有  
権威ある治験医師並びに病院ネットワーク確立

#### ③ グループの資本力

他社は臨床試験をする上で資金調達が必要

### 進捗状況

#### 2026年5月

中国国内の著名な形成外科専門家である羅盛康教授が主導し、北京協和  
医院など6つの権威ある医療機関と共同で実施される多施設共同臨床試  
験を実施中。163名の被験者を登録し、現時点で50%が6か月の観察期  
間を完了。

当該試験は2026年11月頃に完了する見通しとなり、有効性・安全性が  
確認された場合はNMPAへ販売承認申請を行う予定。

Note : OsDerma Medical, Inc.は、当社が20%の株式を保有する持分法適用会社  
出所 : iResearch (当社にて円換算)

## その他事業

その他セグメントは、グローバル本社機能を保有するGNI Group（当社）ならびに米国での研究開発を推進する米国上場企業 Gyre Therapeuticsの2社を含み、将来の成長基盤を支える戦略的な投資を行う14社で構成

### 業績

	FY2025 Q1	FY2026 Q1	増減	増減要因
(百万円)				
売上収益	279	281	2	
営業利益/損失	△ 898	△ 1,423	△ 525	
GNI Group（当社）	△ 805	△ 351	454	<ul style="list-style-type: none"> <li>本社固定費 △157百万円</li> <li>株式評価損 △195百万円（参考：2025年12月22日開示）</li> </ul>
Gyre Therapeutics	△ 235	△ 991	△ 756	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cullgen完全子会社化に係るアドバイザー費 △400百万円</li> <li>米国F351のIND提出に向けた開発費 △160百万円</li> </ul>
GNI/Gyreを除くその他12社	143	△ 80	△ 224	

（全てIFRS会計基準で算出）

# 3. 2026年 第1四半期 連結業績

## 2026年第1四半期 決算ハイライト

### F351上市準備、Gyre及びCullgenの統合、米国での研究開発が進展し、次の成長段階に向けた費用が先行

- 製薬事業の堅調な推移及びメドテック事業の成長により、売上収益は前年同期比で増収
- 営業損益は、F351上市準備、Gyre株式報酬、Cullgen完全子会社化関連費用等により費用先行
- F351はNDA正式受理により、承認及び上市に向けた重要なステージへ移行
- GyreとCullgenの統合により、臨床開発・創薬・商業化を一体化した米中成長基盤を確立
- メドテック事業は一時的な外部環境影響を受けつつも、売上収益はQ1として過去最高を記録

# 連結損益計算書

2025年第4四半期に実施したM&Aの効果が寄与し、売上収益は前年同期比で206百万円の増収

(単位：百万円)	2025 Q1	2026 Q1	前期比増減	増減要因
売上収益	5,320	5,526	206	<ul style="list-style-type: none"> <li>堅調な製薬事業の実績に加え、子会社化したZOO LABOによるメドテック事業拡大が売上成長をけん引</li> </ul>
売上総利益	4,116	4,025	△ 91	
販売費及び一般管理費	3,827	5,459	1,632	<ul style="list-style-type: none"> <li>子会社が前期発行したストックオプションのGyre株式報酬費用</li> <li>製薬事業によるF351上市準備に係るマーケティング投資費用及び既存製品のプロモーション費用</li> <li>GyreによるCullgen完全子会社化に係る費用400百万円含む</li> <li>Gyreによる米国F351のIND申請に向けた研究開発費160百万円の増加</li> </ul>
研究開発費	806	1,053	246	
営業利益	△ 772	△ 2,749	△ 1,977	
税引前当期利益	△ 837	△ 3,187	△ 2,350	
当期利益	△ 1,266	△ 3,376	△ 2,110	
親会社帰属当期利益	△ 530	△ 2,127	△ 1,597	

## 事業セグメント別

(単位：百万円)	製薬		創薬		メドテック		その他	
	2025 Q1	2026 Q1	2025 Q1	2026 Q1	2025 Q1	2026 Q1	2025 Q1	2026 Q1
売上収益	3,315	3,547	353	172	1,370	1,518	279	281
営業利益	810	△40	△1,138	△1,048	245	△246	△898	△1,423

Note：Gyre Therapeutics, Inc.の業績はその他に含まれております。  
各セグメントの合算値と連結財務諸表における実績値との乖離は連結修正によるものです。

## 連結貸借対照表

前期に実施した公募増資の資金使途に基づき、メドテック事業の成長支援を目的としてBB社へ1,214百万円の融資を実行（グループ間取引のため、連結上は消去）

(単位：百万円)	FY2024 Q4	FY2025 Q4	FY2026 Q1	前期比増減	
<b>非流動資産合計</b>	<b>42,720</b>	<b>43,057</b>	<b>45,245</b>	<b>2,188</b>	
のれん	15,994	16,648	16,980	333	• 全額為替換算による増加
無形資産	11,026	12,347	13,263	916	• Gyre PharmaceuticalsによるF351のNDA申請費用及びPhase 3c開発進捗（次頁参照）
<b>流動資産合計</b>	<b>29,222</b>	<b>40,734</b>	<b>37,350</b>	<b>△ 3,383</b>	
売掛金	6,236	8,056	6,219	△ 1,837	• Gyre Pharmaceuticalsによる過去最高の前期売上に対する売掛金の回収が順調に進捗
棚卸資産	2,529	3,752	4,119	367	
現金及び現金同等物	10,115	21,101	19,869	△ 1,232	
<b>負債合計</b>	<b>32,229</b>	<b>31,948</b>	<b>32,076</b>	<b>128</b>	
非流動負債合計	19,764	22,354	22,917	563	• Cullgenの優先株式に対する未払い利息増加（会計上金融負債として、GyreによるCullgen子会社化完了日の5月4日まで計上）
流動負債合計	12,464	9,594	9,159	△ 435	
<b>資本合計</b>	<b>39,713</b>	<b>51,842</b>	<b>50,519</b>	<b>△ 1,323</b>	
資本金等その他	19,887	35,434	35,562	128	
利益剰余金	9,888	5,644	3,516	△ 2,128	
その他の資本の構成要素	6,669	9,240	10,950	1,710	
親会社帰属持分	36,446	50,320	50,030	△ 290	
非支配持分	3,267	1,522	489	△ 1,033	

## 連結貸借対照表/ のれん及び無形資産の内訳

のれん及び無形資産は前四半期比1,249百万円増加

無形資産はF351関連の資産計上開発費が増加しており、その他の増加は主に為替換算影響によるもの

主な内訳		円貨（単位：百万円）				外貨（現地通貨ベース）			
		FY2024 Q4	FY2025 Q4	FY2026 Q1	増減額	FY2024 Q4	FY2025 Q4	FY2026 Q1	単位
		<b>15,994</b>	<b>16,648</b>	<b>16,980</b>	<b>333</b>				
のれん	Gyre Pharmaceuticals	188	194	200	6	8.7	8.7	8.7	百万円
	Gyre Therapeutics	7,616	7,535	7,694	159	48.1	48.1	48.1	百万ドル
	Berkeley Advanced Biomaterials	6,653	6,584	6,724	140	42.1	42.1	42.1	百万ドル
	Berkeley Biologics	1,230	1,217	1,243	26	7.8	7.8	7.8	百万ドル
	ZOO LABO	–	1,081	1,081	0	–	1,081	1,081	百万円
	GNI Hong Kong	35	34	35	1	0.2	0.2	0.2	百万ドル
		<b>11,026</b>	<b>12,347</b>	<b>13,263</b>	<b>916</b>				
無形資産	顧客基盤 ①	2,468	2,290	2,299	9	15.6	14.6	14.4	百万ドル
	ブランド	69	63	63	0	0.4	0.4	0.4	百万ドル
	販売権 ②	0	720	719	△1	0	32.2	31.1	百万円
	資産計上開発費	8,038	9,214	10,122	908				
	Gyre Therapeutics ③	4,745	4,696	4,796	100	30.0	30.0	30.0	百万ドル
	Gyre Pharmaceuticals ④	3,293	4,517	5,325	808	152.0	202.0	230.5	百万円

① 顧客基盤

買収先における時の経過に伴う顧客入替を償却費として反映

② 販売権

Gyre PharmaceuticalsによるEtores™（ニンテダニブ）の販売権。2025年6月に販売開始

③ 資産計上開発費（Gyre Therapeutics）

Gyre Therapeuticsが保有するF351の権利（実際の開発費用は含まない）

④ 資産計上開発費（Gyre Pharmaceuticals）

中国における第3相臨床試験の研究開発費は資産として計上（F351の第3相以降研究開発費含む。上市後は10年で償却予定）

# キャッシュフロー

(単位：百万円)	2025年Q1	2026年Q1	備考
営業活動によるキャッシュ・フロー	△287	△415	・ 税引前損失が3,187百万円となった影響が大きいものの、売掛金回収及び株式報酬費用664百万円等によりキャッシュフロー上の赤字幅は縮小
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,151	△916	・ F351の第3c相臨床試験に係る開発関連支出を無形資産の取得として計上
財務活動によるキャッシュ・フロー	△619	△139	
現金及び現金同等物の換算差額	△427	238	
現金及び現金同等物の増減額	△183	△1,232	
現金及び現金同等物の期首残高	10,115	21,101	
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,931	19,869	

## 研究開発費

- GyreにおけるF351の米国展開に向けた開発準備の進展により、研究開発費が増加
- 資産化された開発費増加においては、Gyre PharmaceuticalsによるF351の上市に向けたNDA申請関連費用及びPhase 3c試験の開発進捗により、808百万円計上が主な増加要因
- F351第3相臨床試験の資産計上は中国における会計基準

	2023 通期 実績	2024 通期 実績	2025 通期 実績	2025 Q1 実績	2026 Q1 実績	前期比増減
(単位：百万円)						
連結研究開発費	2,557	2,811	3,298	806	1,053	246
資産化された開発費	940	1,165	1,176	△173	908	1,081
合計	3,497	3,976	4,474	633	1,961	1,327

# 2026年12月期 連結業績予想

## ■ 連結業績：売上収益予想は前回開示から変更無し

(単位：百万円)	FY2024 実績	FY2025 実績	FY2026 予想
連結売上収益	23,611	26,840	27,158
・製薬事業	15,847	17,314	16,000*
・創薬事業	1,439	789	544
・メドテック事業	5,189	7,584	9,674
・その他事業	1,156	1,169	940

\*当社独自見解を含む  
 Gyre 8-K (2026年5月7日開示) : \$100.5-\$111.0 million(15,600~17,200百万円)のガイダンスは変更無し

## ■ 利益項目の主な非開示理由

- ① 創薬事業における研究開発費  
 今後の研究開発の進捗、動向に加え、各国の規制当局(FDA等)の判断に依存する臨床試験の規模や許認可時期が現段階では未確定
- ② 新薬承認に伴う先行投資の流動性  
 新薬承認のタイミングに大きく依拠するため、今後の承認を見据えた先行投資の実行可否、実施時期とその規模は現時点で未確定
- ③ メドテック事業における戦略的投資の未確定  
 今後の成長を見据えたプライベートブランド戦略において、米国FDA許認可の取得時期に加え、先行投資の実行可否ならびに事業展開の規模(全米規模の展開か、局地的な展開か、自社人員体制か代理店網の活用か等)について、現段階で流動的な要素多数
- ④ M&Aに伴う一過性の会計的要因(影響額の未確定)  
 GyreによるCullgen買収に伴うグループ外債権者からの債務免除益を計上を見込む一方、実際の計上額及びアドバイザー費用等を含むその他の連結業績への影響は監査法人と協議中

想定為替レート USD/JPY 155.0円 CNY/JPY 21.0円

Note : Gyre Therapeutics, Inc.の業績はその他に含まれております。

## 4. 補足資料

## B型肝炎に苦しむ

患者の皆様に新たな希望を。

F351の想い

# 肝炎は世界で 2 番目に多い感染症による死亡原因

## 世界肝炎サミット2024年4月9日

ウイルス性肝炎による推定死亡者数は、110万人から2022年には130万人に増加（2019年）  
うち83%がB型肝炎

## 世界で 2 番目に多い感染症による死亡原因

主要な感染症による死亡原因である結核と同数  
慢性 B 型肝炎感染者のうち、診断を受けているのは 13%  
（2022年末時点）  
治療を受けているのは約3%

## WHO : 2024 世界肝炎報告書(244頁)

- B型ウイルス感染者  
グローバル：2億5,400万人  
中国：7,970万人
- 西太平洋エリア(中国含む)  
感染者数：9,680万人  
年間死亡者：51.8万人  
慢性B型肝炎の診断率：25.5%  
診断後の治療率 23.2%  
B型感染者全体に対する治療率 5.9%

**B型肝炎に苦しむ**

患者の皆様に新たな希望を。

F351の想い

# 中国において推定6,000万人~7,970万人\*が B型肝炎ウイルス感染者

段階	説明
1. B型感染	B型肝炎ウイルスに感染。急性肝炎として治癒する場合と、持続感染（HBVキャリア）となる場合がある。乳幼児期の感染はキャリア化しやすい。
2. 慢性B型肝炎（CHB炎症）	ウイルスが持続感染し、肝臓で炎症が続く状態。ウイルスの活動性により肝機能の状態は変動する。
3. 肝線維症	慢性的な炎症により、肝臓の組織が硬く線維化していく状態。初期には自覚症状がないことが多い。
4. 肝硬変	肝線維症が進行し、肝臓全体が硬くなり、正常な構造が失われた状態。肝機能が著しく低下し、様々な合併症を引き起こす可能性がある。
5. 肝細胞癌	肝硬変を背景に発生することが多いが、慢性肝炎や肝線維症の状態でも発生することがある。定期的な経過観察が重要。
6. 肝移植（必要な場合）	末期肝硬変や進行した肝細胞癌に対する治療選択肢の一つ。肝臓の機能が回復しない場合や、肝細胞癌が進行した場合に検討される。
（補足）	全ての人がこの順序で進行するわけではない。無症候性キャリアの状態が長く続く場合もある。既存のCHB療法等により進行を遅らせることが可能。

\*【統計データ及び情報源に関する注記】本資料に記載した中国の慢性B型肝炎（CHB）患者数は、複数の公表データに基づいています。まず、GYRE Therapeutics社は市場分析における低位推計として約6,000万人という数値を提示しています。一方、2024年発表の中国全土を対象とした国血清疫学調査（サンプル数91,869人）では、HBsAg陽性率5.86%に基づき国内陽性者数を約7,500万人と算出しています。さらに、2024年発表のWHOレポートでは、患者総数を7,970万人と推計しています。各情報源により算出根拠や対象範囲が異なるため、数値には6,000万~8,000万人規模の幅が生じている点にご留意ください。詳細は各原典資料をご確認願います。

## B型肝炎に苦しむ 患者の皆様に新たな希望を。 F351の想い

### F351のピーク時推定患者数の試算：約300万～750万人\* (GNI Group独自見解)

#### ①B型肝炎患者数

条件	人数	割合
中国人口	1,411,100,000	—
HBV陽性者総数	82,690,460	5.86%
HBV陽性者数 (対象外年齢控除)	75,000,000	-9.30%



#### ②B型肝炎患者のうち、感染認識の有無

条件	人数	割合
感染の認識なし	30,915,000	41.22%
感染の認識あり	44,085,000	58.78%



#### ③感染認識がある治療中患者数

患者は抗線維化薬のF351と既存療法を併用

条件	人数	割合
CHB療法の適応外	2,645,100	6.0%
CHB療法の適応有、治療受けず	22,672,615	51.4%
CHB療法の適応有、治療中	18,767,285	42.6%



#### ④治療中患者のうち、Ishakスコアが2以上

F351はF2以上の患者を対象

条件	人数	割合
Ishak 2未満	11,260,371	60.0%
Ishak 2以上*	7,506,914	40.0%

### 2020年の調査結果：2024年公表

- a. 感染の認識HBs抗原の陽性率は**5.86%**と推定
- b. 15歳以上の参加者の約**58.78%**のみが自身の感染状況を認識
- c. 自身のHBV感染状況を認識していた人のうち
  1. **38.25%**がCHB療法に適応あり(現94%に引き上げ)
  2. 実際にCHB療法を受けていたのは**17.33%**

### 国策による追い風：2022年12月18日

中国肝臓病学会(CSH)と中国感染症学会(CSID)は「慢性B型肝炎の予防と治療に関するガイドライン」を改訂。抗ウイルス療法開始の閾値を検出可能なHBV DNAレベル(10-20 IU/mL超)にまで大幅に引き下げ。この改訂により、慢性B型肝炎患者の**推定94%(=51.4%+42.6%)**が治療適応基準に該当。

\*推定患者数の試算はGNI Group作成(2025年8月)。本予測は、その算出の基礎となる仮定条件が変わることにより、予測値も変動する可能性があります。  
 出所：Prevalence of hepatic steatosis, fibrosis and associated factors in chronic hepatitis B  
 他データ出所：Journal of Clinical and Translational Hepatology, "Hydronidone treatment for liver fibrosis associated with CHB"

# 「三強」の合計利用者推定

製品名	主要メーカー	卸価格推定値	市場シェア	小売ベース推定値	市場の位置付けとシェアの状況	中国の国家診療ガイドラインで推奨されており、公的医療保険の対象	年間薬価	原材料
扶正化癥 (Fuzheng Huayu)	上海黄海製薬 (Baiyang Pharmaceuticals 傘下)	2024年度通期: 6.31億元(+16.6%YoY) ≒約146億円 2025年度上半期: 3.71億元(対前年同月比+37.4%) ≒約86億円	31.5%	推計16-21億元 (336-441億円)	上海黄海製薬/Baiyang Pharmaceutical傘下の主力製品(年間売上は約5億元≒105億円)で、中国の抗肝線維化市場においてトップクラスのシェア(25%-30%程度)を占めていると推計。米国FDAの臨床試験 (Phase 2) も完了しており、科学的根拠が重視される病院ルートに強い。	○	6,000-8,000円 (約12-16万円)	冬虫夏草の菌糸体 (虫草)
復方鼈甲軟肝片 (Biejia Ruangan)	内蒙古福瑞医療	2024年度通期: 約3億元 ≒約70億円 2025年度上半期: 約1.5億元 (対前年同月比+1.6%)	15%	推計8-10億元 (170-210億円)	扶正化癥と並ぶ2大巨頭。1999年に中国で初めて肝線維化治療として承認された経緯があり、第一号として中国全土での知名度と処方実績が非常に多い。中国の病院市場における「抗肝線維化(症)中成薬」の中で高いシェアを占める。	○	12,000-14,000円 (約25-29万円)	すっぽん 甲羅
安絡化織丸 (Anluo Huaxian)	森隆薬業	約1億元 (約23億円)	5%	推計2-3億元 (42-63億円)	上記2つに次ぐ主要製品。臨床ガイドラインにも掲載されており、一定のシェアを維持。	○	4,000-5,000円 (約8-10万円)	
上位3薬品	上位3社	10.3億元 (238億円)	51%	26-34億元 (548-714億円)				
市場全体	市場全体	20.2億元 (467億円)	100%	51-67億元 (1,075-1,400億円)				

主要な漢方薬/中成薬3剤を服用して、中国全体で実質的に治療を受けているのは年間 **40万~60万人**というのが、市場データ等に基づいた推計値です。三強のシェアが推定50%とされることから中国市場全体で肝線維症を自覚し、**強い治療意志を持って自費で肝線維症治療費を負担している顧客層(キャッシュペイヤー)が最低でも80万~120万人いると推計されます。**市場レポートによって数字が大きく異なる理由は「延べ人数」か「通年人数」か: 3ヶ月だけ飲んだ人を「1人」と数えるか「0.25人」と数えるかで、人数が4倍変わります。

扶正化癥 (メーカー: 上海黄海製薬) 【参照資料: 中康CMH「中国肝病薬物市場分析報告」】  
 売上規模: 年間 12億~16億元 ※注釈: 2024年度。2025年度上半期は前年比で37%成長  
 服用コスト: 1年間フル服用で 8,000~10,000円 (約16~20万円)。  
 推定利用者数: **約 15万~25万人**

復方鼈甲軟肝片 【参照資料: 福瑞股份 投資家向け説明資料 / 証券会社リサーチレポート】  
 売上規模: 年間約 10億~11億元 (病院ルート中心)  
 服用コスト: レポートによれば、標準的な1コース (3ヶ月) の費用は約1,500~2,000円。1年間フル服用で 6,000~8,000円。「25~29万円」という数字は、自由診療の小売定価ベースの最大値。保険償還価格 (VBP/集中調達等) を反映したレポートでは、1日あたり20円前後に落ち着いています。  
 推定利用者数: **約 15万~20万人**

安絡化織丸 (メーカー: 輝縣市安絡化織薬業) 【参照資料: 米内網 (Menet.com.cn) 公立病院売上データ】  
 売上規模: 年間 5億~6億元  
 服用コスト: 1年間フル服用で 5,000~7,000円。  
 推定利用者数: **約 8万~12万人**

※記述は全てGNIの独自解釈であり、Gyre社と異なる見解となる可能性があります。また、本記載内容には市場予測が含まれますが、様々なリスクや不確実性により実際の結果と大きく異なる場合があります。

## F351は需要を喚起し、市場を新たに創る

従来、西洋医学における慢性B型肝炎治療は抗ウイルス剤で進行を「遅らせる」に留まり、線維化自体の治療は困難でした。進行すれば不可逆的な肝硬変や肝細胞癌へ至る重大な疾患ですが、有効な治療薬が存在しないことから、医療現場では患者様に過度な精神的負担を与えまいと、あえて進行事実の告知を見送るケースも指摘されるなど、深刻なアンメット・メディカル・ニーズが存在しています。

現在の抗線維化治療は主に漢方薬（中成薬）が用いられますが、厳格な客観データを重視する西洋医学系の医師からは処方が見送られがちでした。これに対し、当社の治療候補薬F351は、プラセボ対照第3相臨床試験において「肝線維化の改善」を示す強固なデータを得ました。このエビデンスにより、これまで漢方を敬遠していた医師層にも自信を持って治療選択肢を提供いただけるようになり、新たな市場拡大が見込まれます。

承認前後は「肝線維症は治療可能である」という認知を高める疾患啓発活動を強力に推進します。さらに、中国肝臓病学会のガイドラインにおいて「抗線維化の第一選択薬」として推奨されることを目指しております。これが標準治療として定着すれば、多くの患者様への貢献とともに、当社グループの持続的な収益拡大を牽引する強力な柱となる見通しです。

漢方薬は、主に「抗線維化」と「免疫調節」を担います。活血作用により肝臓の血流を改善して組織の硬化を防ぎ、修復を促す補助的効果が期待されます。中国の慢性B型肝炎患者の80%が何らかの形で漢方治療を併用していると言われております。

⇒ Hepatology (2010年掲載 / 米国肝臓学会誌) Lingyi Zhang / Contemporary Clinical Research of Traditional Chinese Medicines for Chronic Hepatitis B in China: An Analytical Review. “Despite the availability of IFN and/or nucleoside analogues, almost 80% of the patients with CHB in China rely on TCM therapy.”

⇒ 『BMJ Open』 (2017年掲載) Tzung-Yi Tsai/Associations between prescribed Chinese herbal medicine and risk of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis B: a nationwide population-based cohort study. “Owing to its low cost and low toxicity, about 80% of patients with CHB in China and Taiwan have received CHM treatment.”

『中国における肝線維化診断・治療ガイドラインの最新版』  
抗肝線維化を目的とした漢方薬の普及率は「非常に低い（深刻な未充足市場である）」と言及される。西洋薬（化学合成薬）において、肝線維化を直接的に逆転・治療する新薬は世界的に見てもまだ承認されていません。そのため、中国のガイドラインでは「扶正化癥」「復方鼈甲軟肝片」「安絡化纖丸」といった中成薬がファーストライン（第一選択薬）として強く推奨されています。

慢性B型肝炎患者全体に対する普及率: 1~2%未満

中国には約7,000万~8,000万人の慢性B型肝炎患者がいますが、抗ウイルス薬（エンテカビルなど）は飲んでいても、高価な抗線維化薬まで併用している人はごくわずかです。

「線維化が進んでいる」と診断された（治療対象）患者に対する普及率: 約5~10%  
肝線維化・初期肝硬変の患者は約700万~1,000万人と推定されていますが、実際にこれらの推奨中成薬による標準治療（数ヶ月以上の継続服用）を受けているのは、全体の1割未満とされています。

**抗肝線維化 漢方薬の全体利用者数: 約 35万人 ~ 100万人**

※記述は全てGNIの独自解釈であり、Gyre社と異なる見解となる可能性があります。また、本記載内容には市場予測が含まれますが、様々なリスクや不確実性により実際の結果と大きく異なる場合があります。

## 中国におけるB型肝炎の抗ウイルス剤 服用人数

中国疾病予防コントロールセンター(CDC)やWHO協力機関「Polaris Observatory」等の調査により、**推定500万人~600万人**がB型肝炎の抗ウイルス剤を服用していると推計される。2022年調査では**推計508万人**。『The Lancet Gastroenterology & Hepatology : 2023年10月』では"**500万人を超える程度しか**治療を受けていない"。

中国医学会の『慢性B型肝炎予防治療ガイドライン（2022年版）』の改訂により、エンテカビル(ETV)、テノホビル(TDF)、テノホビルアラフェナミド(TAF)の3剤のみが、第一選択薬(最初に使用するよう最も強く推奨されている標準的な薬)として推奨

抗ウイルス薬	ETV	TDF	TAF
上市年度	2006年	2014年	2019年
当時の年間薬価 (万円)	約30万円	約41万円	約32万円
当時の年間薬価 (元)	1万3200元	1万8000元	1万4160元
製薬会社	米国	米国	米国

B型肝炎の抗ウイルス薬は「ウイルスの増殖を抑える薬」です。中国では承認薬が10ほどあり競争があります。

F351は「すでに進行してしまった肝臓の線維化を直接改善する治療薬候補」です。現在、この分野で有効性が証明され承認された薬は世界に一つもありません(当社調べ)。そして中国で開発されている化学医薬品1類新薬であり、画期的治療薬として指定されています。

※記述は全てGNIの独自解釈であり、Gyre社と異なる見解となる可能性があります。また、本記載内容には市場予測が含まれますが、様々なリスクや不確実性により実際の結果と大きく異なる場合があります。

# お問い合わせ先: 株式会社ジーエヌアイグループ インベスターリレーションズ

 : [IR@gnipharma.com](mailto:IR@gnipharma.com)  
 : [www.gnipharma.com](http://www.gnipharma.com)

本資料に記載されている、意見や予測、今後の見通し等は、当社グループが、資料作成時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受け、大きく変動することもあります。従いまして、実際の業績及び戦略等につきましては、この配布資料に記載されている内容とは、大きく異なる可能性がございますことを、予めご承知おき下さい。また、事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。

